

幼稚園を覗く (二)

竹 村 一

六四

この脊柱の異常者といふことのふえて来た事は、いろいろの事情があると思ひますが、矢張り「姿勢の教育」をいふことが忘れられてゐたからではないかと思はれます。

幼稚園の衛生をいへば、お医者さんや、園醫さんが来てして下さるごみだごみのみ思つてゐた昔の時代の流れが、まだ残つてゐるところから、保姆諸君はかうした身體の方面のごみは比較的忘れられ勝であつたのではないかと思はれます。

幼稚園衛生學といふごみは醫學であつても、幼稚園衛生といふごみは、教育としての仕事であります。「學としての存在」に「仕事としての存在」を判然り區別してゐない保姆諸君のあるごみを屢々見うけます〔拙著「教育としての學校衛生」(學童保健第六卷第六十五號)「日本學校衛生の特色」

(學童の保健昭和十一年一月號)を参照されたし〕。學校衛生の講習や、幼稚園衛生の講習をいへば、大抵、醫學のお話でせう、教育をいふ仕事——教育の理念を方法に従つた教育としての衛生は殆き聞かれぬ状態です。

健康教育、健康教育をよく言ひますが、健康教育を云ふよりも、健康醫學を云つた方が遙にましな場合が屢々あります。健康教育は、教育としての衛生であつて、醫學ではないといふごみを話す人も、聞く人も、忘れてゐる場合が多い。

現代教育の理念を方法に從はない外國流な健康教育の考へ方は、此際よしにして、日本は日本としての健康教育について考へたいです。身體のごみは、醫學だなきごみのみ考へてゐる人はたまへ、健康教育をいふ言葉を用ひても。

それは、廣い意味での衛生の教育化であつて、學校や、幼稚園に於ての他の教材を指導すると同じ意味——理念の方法上——の健康教育ではない。

教育といふことは、全一的、全體的であることが必須條件である。健康に關する教育も、學校や、幼稚園で、教育として行はるゝ場合には、それが、哲學上の思惟をへた理念、現代の教育學の教ゆる指導方法に從つて、考へられたものでなければならぬと思ひます。

さて「姿勢の教育」でありますが、昔から姿勢といへば、すぐ机、腰掛を聯想される程、姿勢は机、腰掛を密接な相関におかれてゐるのであります。

○
倉橋先生

さうでせうか、私は此頃こんなにか考へる様になつて來ました。

それは、勿論机、腰掛に就て考へることも大切であるが、それよりも、まづ脊柱彎曲は、多くの場合、背部の正しい教育が足りない結果ではないかと思ひます。そこで、少く

も幼稚園では、毎日背部の健康教育をやることにしてはゞ考へます。多少は古い本でありますが、例へば Child training—V. M. Hillier の Physical training “Down, Up” Developing the body (1299) の様な運動を毎日幼稚園でやつては如何でせうか、或は特別に姿勢の悪いこどもには、之も古い本ではあるが、Hans Spitz—Körperliche Erziehung des Kindes の Ausgezeichnete Körperstreckübung (p. 158) の様な運動をやらせてみては如何でせうか。

たゞみ紙、をり紙、描き方、觀察、遊戯等の外にかうした、教育としての衛生が、幼稚園保育の中に入れられては悪いでせうか、かうした注意、心やりが保姆諸君の手で、こどもに行はれることは悪いでせうか。

「姿勢の教育」が之迄餘りに閑却されてゐたことが、人間に種々の病氣を起したこゝへ考へる人があります。私も不健康といふこゝへ姿勢といふこゝへは、非常に密接な關係があるといふことに驚きました。

日本人は、もつと正しい姿勢について注意を拂ひ、正し

い姿勢の持主になる様に努力する。ここの必要を痛感するも
 のであります。その意味から先づ幼稚園では「姿勢の教育」
 をやつて欲しいと思ひます。如何でせうか。

幼稚園のこごも、の食事の時、本を見る時、ねる時、歩む
 時、机による時、坐る時、物を眺める時、正しき姿勢につ
 いて考へて欲しいと思ひます。

學習院の教授渡邊八郎先生は「體の修養」の第一に體の相
 こして、起居動作の正しき様、正しき姿勢を擧げておられ
 ます。

正しき姿勢は體の修養の第一である。こ述べられ、更に此
 正しき體の形相の上に武術の練磨をせよ。こ説かれてをりま
 す(同先生著「國體の教育」一〇〇頁参照)。

姿勢についで關係の深いこは「歩く」こいふこです。
 幼稚園のこごもから、「正しく歩く」ここの練習をして
 欲しいこです。

こごでせうか。
 「學校體操教授要目」が改正になりました、そして色々の
 新しい種目が加はりましたが、就中、特に私の眼を引いた

のは「歩及走」の一項目が加つたこであります。
 「正しく歩く」こいふこ、之は又我々の健康生活に重大
 な役割を持つものだと思ひます。取り分け、姿勢は非常
 に關係が深いと思はれます。

幼稚園の保姆諸君はこごもが「正しく歩む」か否やについ
 て考へて下さつてゐるでせうか。いろ／＼のお遊戯をする
 前に、「正しく歩く」こが必要ではありませんまいか。

手ぶらで歩く時、物を持つてある時、いろ／＼の場合
 について、保姆諸君は考へて下さつてゐるでせうか。
 私は姿勢の悪いこごもが多少ふえて來たこを思ふ時に、
 こんな感じが頭の中で湧いて參りました。

○

倉橋先生。

嘗て先生は「幼稚園雜草」の中の「幼稚園の生活」で「幼
 園は子供の心と身體の活動欲に正當な満足と與へて、それ
 によつて子供を存分に成長させてゆくこころであるこ云つ
 ていゝのであります」(一四二頁)を教へて下さつたです。

正當な満足と與へて存分に成長させる

こゝが幼稚園の使命であるとするならば、健康生活を障得せない様に心身の活動欲を正當に満足せしめて成長を助ける仕事は亦幼稚園教育で當然なさねばならないこゝでありますが。

そこで、私は此四月に或幼稚園で、改正された身體検査法によつて行ひました其結果——測定、診察、觀察——をまごめて、一人一人のお母さんをお呼びしまして、そして日常家庭に於ける生活で健康上のお氣付の點を聞かせていただき、そして又こちらからも發見した事を申し上げましてお母さんミ保姆ミ園醫ミ三人鼎坐して、お母さんミ膝を交へてお話を致しました。之は、こゝもの活動欲を正當に満足せしめる爲の根本的な仕事であると思ひます。

是迄は身體検査の結果を通信簿で、家庭へ通知したり、或は検査のすんだ後で母の會をして一同にお話をしたりして来た場合が多かつたですが、今年は全然、一變して、一人一人について「生活指導」をすることにしました。

まだ一學期しか経過しませんが、著しく感じた事は、お母さんが非常に、切實に、こゝもの身體について考へて下

さる様になつたこゝ、今一つは、こゝもの日常生活に於て正當な満足を中心と與へようミ一層注意を拂はれる様になつたこゝです。

私は、かうした個人、個人について保姆ミ、お母さんミ、園醫ミが一所になつて話合ひ、相談するこゝが、小學校へ行く前の數年間に於て行はるこゝが、將來そのこゝもの爲に、され程が重大な意義を持つかといふこゝを考へさせられました。

身體検査の結果の利用といふこゝは、教育ミして仕事であるといふこゝが保姆諸君の頭には入つたならば、それが保育である——少くも健康への正當な満足が與へられ、それによつて、こゝものが存分に成長するならば、幼稚園に於ける仕事の大部分は、はたされた云つてもよいではないかと思ふ。

正當な満足を與へて、それによつてこゝものを存分に成長させてやりたい。

こゝの念願は、一步進んで保育の實際上に今一度考へて欲しい氣がしますが、

先生！ 如何でせうか。(つゞく)